

Hokkaido Nougyou Doboku  
Sokuryou Sekkei Kyoukai Jihou

# 農土測協時報



森の番人「シマフクロウ」斜里町にて



# 農士測協時報

令和3年8月版

■令和3年度 通常総会	1
■意見交換会	4
■研修会	5
「令和2年度 経済効果初級研修会」	
「令和3年度 費用対効果算定研修会」	
■社長 紹介	7
扇コンサル(株) 代表取締役 澤川 朋之	
(株)ズコーシャ 代表取締役社長 高橋 宣之	
サン技研(株) 代表取締役 阿部 元一	
■技術者資格取得支援事業 修了者より	11
(株)みずほ栄設計 河合 翼	
■お知らせ	12



## 令和3年度 通常総会

令和3年度の通常総会が5月27日、ホテルポールスター札幌で開催された。

神耐三会長の開会挨拶に続き、北海道農政部 農村振興局長 芳賀是則様からの書面によるご祝辞を神会長代読ののち、議事に入った。

定款第16条により神会長が議長となり、議事録署名人は定款第20条2項に基づき、出席理事の中から天満理事、佐藤理事を指名し、議案の審議に入った。

まず、報告事項 ①令和3年度事業計画及び収入支出補正予算について、②技術者資格取得支援事業について、③会員の合併・社名変更について、議案書に基づき事務局より詳細な説明があった。

第1号議案「令和2年度事業報告及び収入支出決算の承認について」事務局の説明、細川監事からの監査報告があり、全員の賛成により承認された。

第2号議案「任期満了に伴う役員を選任について」後掲（P.12）の理事15名と監事3名が全員の賛成により承認され、総会は終了した。



## 令和3年度通常総会より

## 「農業農村整備を巡る情勢について」

北海道農政部 農村振興局長 芳賀 是 則

本日は、「北海道農業土木測量設計協会令和3年度通常総会」がこのように盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

また、神会長をはじめ、協会及び会員の皆様には、日頃から農業農村整備事業の円滑な推進にご尽力いただいていることに対し、厚くお礼申し上げますとともに、新型コロナウイルス感染症が猛威を振う中、感染拡大防止対策を実施しながらの業務にご協力いただき重ねて感謝申し上げます。

さて、今、少し触れました新型コロナウイルス感染症についてですが、一昨年 of 年末に初めて中国で確認されてからあっという間に世界中に蔓延し、現在でも感染拡大が進んでいます。

道内においても、4月末から感染者が急速に増加したため国は「緊急事態宣言」を発令し、より強い感染拡大防止対策を実施しており、夜の会食の自粛や他地域への移動制限、テレワークの実施など、社会経済や人々の生活に大きな変化をもたらしています。

また、農業分野においても国内では、外食需要の減少等に伴う牛肉や日本酒の消費低迷、イベント中止等に伴う花きの消費減少など、食品需要の減少や消費構造の変化に伴う影響が生じています。

一方、海外では、自国の食料を確保するため、輸出規制を発動した国があるなど、改めて、国内における食料自給の重要性が認識され我が国最大の食料供給地域である本道の果たす役割と期待は、一層、大きくなっています。

こうした中、本道農業・農村を巡っては、高齢化の進行や農家戸数の減少、労働力不足

のほか、経済のグローバル化への対応、頻発・激甚化する自然災害への備えなど、様々な課題に直面しています。

このような農村地域の様々な課題に向き合い、活力ある農村づくりを進めるため、道では、本年3月に、「第6期北海道農業・農村振興推進計画」を策定し、今後、この計画に即して各施策を展開していくこととしています。

その施策の第1番目に、生産基盤の強化を挙げており、スマート農業の導入が容易で農作業の省力化が図られるほ場の大区画化や高収益作物の導入が可能となる排水対策などの「農業の生産力・競争力強化に向けた農業生産基盤の整備」、老朽化した農業水利施設等をストックマネジメント手法を用いて計画的・効果的に更新整備し、ライフサイクルコストの低減を図る「農業水利施設等の保全管理」、頻発・激甚化する自然災害によって生じる農地や農業水利施設などの被害を防止・軽減する「農業・農村の強靱化に向けた防災・減災対策」の3つを柱として、重点的に取り組むこととしています。

また、こうした整備を計画的・効果的に進めていくためには、予算の確保が何よりも重要となりますが、令和3年度の農業農村整備事業予算は、農業の体質強化に必要なTPP等対策の補正予算が計上されたほか、「防災・減災、国土強靱化のための5カ年加速化対策」が措置され、当初と補正を合わせた予算総額としては、全国で6,300億円を計上する大型予算となっており、北海道への道営及び団体営事業への配分額も、535億円を確保するなど、概ね地元要望に応えられる予算となっていま



す。

道としては、こうした予算を早期に発注するなど予算の円滑な執行に努めているところ。

また、多くの皆様から事業の継続を求める要望が寄せられていた道独自の農家負担軽減対策「パワーアップ事業」については、25年もの長きに渡って続き、マンネリ化しているといった指摘がある中、コロナ渦で道財政が厳しい状況となり継続を危惧する声もありましたが、多くの方々の多大なるご支援・ご尽力のおかげによりまして、引き続き、継続する運びとなり、本年度から6期対策「次世代パワーアップ事業」として新たにスタートすることとなりました。

このことにより、今後5年間は、道営事業における農家負担の軽減が図られることになり、引き続き、農業者からの多くの整備要望が寄せられるものと考えている。

次に、調査・設計等の委託費をめぐる情勢についてですが、先ほど、令和3年度の農業農村整備関係予算について、概ね地元要望に応えられる規模といったお話をさせていただきましたが、委託費については、対前年度比92.7%と、昨年度よりも減少している状況となっています。

また、ここ数年の委託費のトレンドを見ますと、年によって増減する安定しない傾向にあることから、道では、年度予算の安定的な確保とともに、新規地区の継続的かつ安定的な採択が重要と考え、昨年度より、過去の整備履歴を踏まえながら、地域ごとに今後30年間の効果的な総合整備事業の整備時期を想定する「整備予定カレンダー」を取り纏めるとともに、それを地元市町村や改良区、農協などに提供・提案し、調整した上で地域の合意形成を図ることにより、今後の中長期に渡る新規地区の継続的・計画的な採択に繋げ、地域における毎年の整備量のストック確保と平準化を図る「中長期の整備構想づくり」の取組を全道で展開しているところ。

次に、令和元年に施行された「働き方改革関連法」の対応についてですが、業務環境の改善が求められる中、委託成果品の品質を確保するためには、年度末に集中する業務の平準化を図りつつ、業務の効率化を進める必要

があると考え、道では、令和元年度に「働き方改革に対応した業務改善プログラム」を策定し、設計基本条件検討会の見直しや施工アドバイザー制度を導入するなどの委託成果品の質の向上を図る取組のほか、早期発注や適正な工期の設定、2カ年調査の導入などの業務の平準化を図る取組、モバイル通信機器の導入や、情報共有システム「N4」の積極的な活用などの業務の効率化に向けた取組を進めているところ。

今後とも、引き続き、こうした取組を皆様方からの意見も伺い、毎年見直しを行いながら継続的に実施し、業務環境の改善を一層進めていく考え。

次に、ため池関連についてであります。昨年10月に「ため池工事特措法」の施行され、道では、決壊した際に下流域に甚大な被害を及ぼすおそれのある全道8振興局126か所の農業用ため池を防災重点農業用ため池に指定するとともに、これらのため池の防災工事等推進計画を、本年3月に策定したところ。

この計画によると、防災工事が必要と判断されたため池の工事を法の有効期間である令和12年度までに、計画的かつ集中的に実施することとしており、この期間、ため池に関する事業の計画策定業務や設計業務が増加することが予想されますので、測量設計協会及び会員の皆様のお力添えをよろしくお願い致します。

むすびになりますが、昨年は、大きな災害もなく、米の作況が106の「良」となったのははじめ多くの農作物の作柄が概ね平年並以上となるなど、総じて良好な年となりました。

本年、令和3年度においても災害が発生することなく、豊穰の秋を迎えられますとともに、新型コロナウイルス感染症が一刻も早く収まり、日常生活や経済が回復することを願いつつ、北海道農業土木測量設計協会そして会員企業の益々のご発展と、本日ご参会の皆様のご健勝を祈念申し上げまして、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。



## 農政部との意見交換会を開催

6月10日（木）農政部と農土測協役員で意見交換を実施した。

農政部から高崎技監、合田技術管理担当課長、野口課長補佐の3名、協会からは、神会長、熊頭副会長、原副会長、吉田副会長の4名が出席した。

冒頭、神会長から補正を含む予算の確保、早期発注や新型コロナ禍の中での業務推進に感謝を述べ、本年の委託費の執行に関して現状を説明した。

農政部高崎技監から、協会に対し道営事業の執行に対する協力に感謝を述べるとともに、本年度の予算措置、執行の状況、次年度以降の新規採択の動向などについて説明をいただいた。

協会からは引き続き農業農村整備予算の確保について重ねて要望するとともに、今後の継続的な意見交換の機会をお願いし、意見交換を終了した。





# 令和2年度 経済効果初級研修会

令和2年度の協会で毎年実施している研修会は、新型コロナの感染防止の観点から、集合研修ではなく、WEBで実施しております。

3月2日、3日の二日間にわたり、「令和2年度経済効果初級研修会」を開催。

この研修は、振興局に勤務する採用1～2年目を対象とする農政部の研修会に、当協会に所属する効果算定の初級技術者を交えて、農政部農村計画課の職員が講師となって開催致しました。

研修会には21社、47名の参加をいただきました。

朝倉農村計画課長の開会挨拶ののち、費用対効果に係る基礎研修を1.5日にわたり受講。

各研修パート毎の説明のあと、演習問題の回答、解説、また質疑応答も行われました。

研修会終了後のアンケートでは、

- ・「資料は図やイラストを使い、初心者にも理解しやすいように、工夫されている。」
- ・「洗濯機など身近な例を用い内容説明、ケーススタディ、演習の流れで理解度を高められた。」

また、在札以外の会員からは「移動時間の短縮に有効」などの意見。

その他、「応用編の開催要望」が寄せられました。

The image shows two screenshots from a Zoom meeting. The top screenshot displays a presentation slide titled "作物生産効果算定 ケーススタディ 機能向上（新設整備） 第1表～第11表". Below the title, there is a note: "「新たな土地改良の効果算定マニュアル」を「マニュアル」と記載する。 「土地改良事業の費用対効果分析に係る係数・単産」は「係数・単産」と記載する。". The bottom screenshot shows a slide titled "具体的な算定方法" with the text "最後は【量→金額】で見える化（生産増減効果の算定）" and "○再建設整備の場合". It includes a diagram showing a washing machine icon with the calculation  $100\text{円/kg} = 500\text{円の粗収益}$  and a bucket icon with the text "なかりせば洗済量".



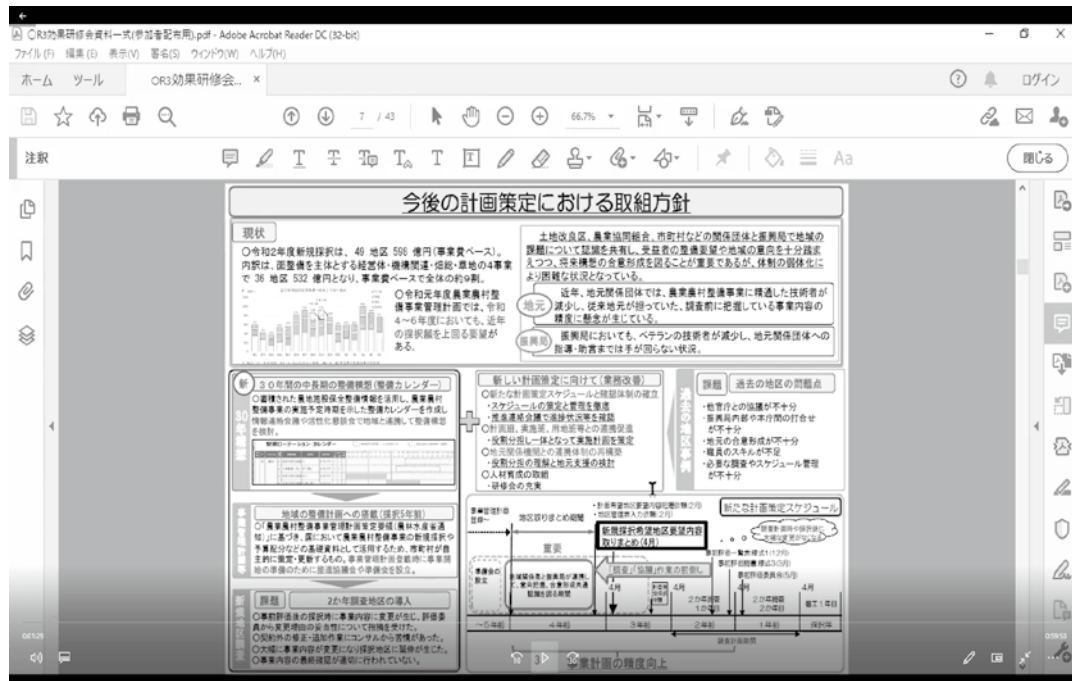
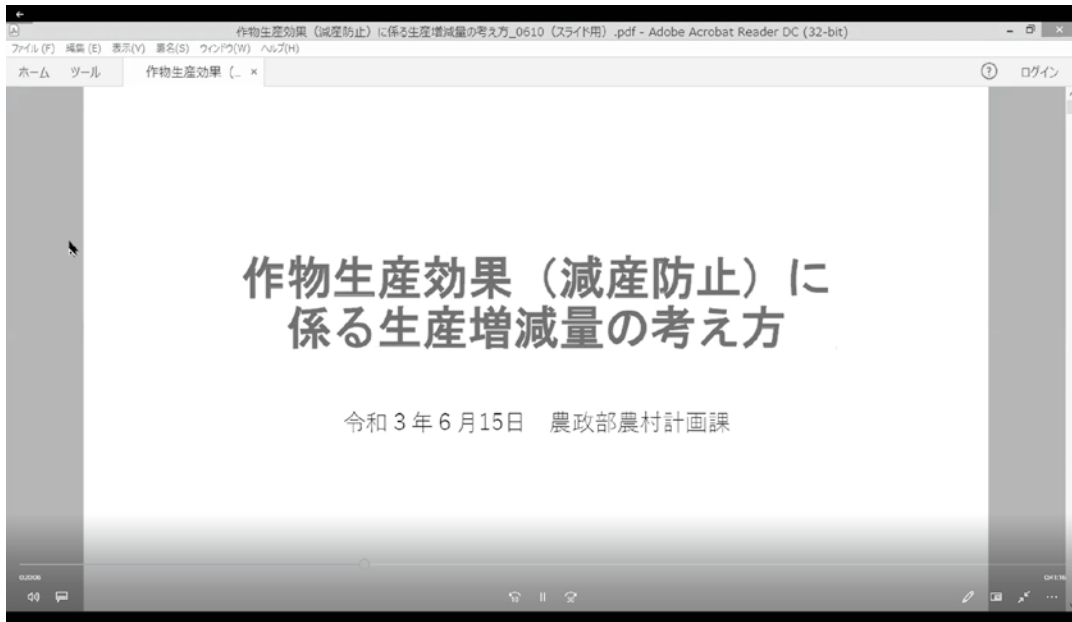
# 令和3年度 費用対効果算定研修会

昨年に引き続き「費用対効果算定研修会」を、WEBで開催しました。

6月15日の10時30分から23社60名の参加を得て、農村計画課、農地整備課の職員に講師をお願いしました。

神会長の開会挨拶に続き、講師から下記項目について、説明をいただきました。

- ・今後の計画策定における取組方針について
- ・作物生産効果（減産防止）に係る生産増減量の考え方
- ・草地整備事業における酪肉近計画の変更について
- ・自動給水栓導入に係る営農節減効果等の取扱いについて
- ・農地施設保全整備情報の貸与について







# 扇コンサル株式会社

代表取締役 澤川 朋之

## はじめに

令和元年7月に扇コンサル株式会社代表取締役に就任しました澤川朋之です。この度は会社紹介及び社長紹介の機会をいただきありがとうございます。弊社について少しでもお伝えすることが出来れば幸いです。

私が扇コンサルに入社したのは平成23年のことで、測量については一からのスタートでしたが、ベテランの先輩方に教わりながら少しずつ測量の仕事を覚えていきました。そのような中、現場で手際良く作業をする先輩方に少しでも早く追いつきたいと機器の設置や素早く正確にレベルの数値を読めるよう練習を繰り返していたことを思い出します。その後4年間さまざまな現場で経験を重ねた後、営業職を経験して現在に至っておりますが、今でも現場で培われた感覚や知識は重要な事であると感じております。

## 会社紹介

弊社は昭和58年に前社長である父（現相談役）が創業したことから始まり、昭和61年に「有限会社扇測量設計事務所」を設立、平成9年社名変更し、「扇株式会社」、平成13年に現在の「扇コンサル株式会社」となり、皆様のご支援・ご指導のおかげで現在創業38年目を迎えることができました。

弊社は創業当初から日本有数の米どころであります空知地方を中心として測量調査・土木設計を行っております。「地域に密着して培われた高い技術力で地域に貢献する」を基本理念に掲げ、地域に根差し、より良い社会基盤整備の一助となることを目指し、日々技術力の研鑽に取り組んでおります。情報技術が目覚しく発展をしている昨今、人材不足という重大な課題を抱える我々にとって、新たな技術を有効活用して省力化を図ることは必要不可欠であり、当社では平成27年からUAVを導入し、業務の省力化に取り組んでおります。平成28年に起きた台風による深川市、南富良野町、清水町への河川災害、平成30年に起きた胆振東部地震による災害時には、被害状況を迅速かつ安全に調査可能なUAVの有効性を実感しました。他にも最先端の技術で省力化につながる技術は積極的に取り入れていけるよう最新情報には常にアンテナを張っております。同時に若年層を中心とした新たな担い手の確保に向けて生産性の向上を図り、労働時間の短縮など労働環境の改善により一層取り組んでいく所存です。

## おわりに

これからも北海道農業の発展に貢献できるよう一生懸命まい進していく所存です。まだまだ若輩者で至らないことが多々ございますが、今後とも協会並びに協会員の皆様方のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。





## 株式会社 ズコーシャ

代表取締役社長 高橋 宣之

### はじめに

令和元年12月に代表取締役社長に就任いたしました高橋でございます。日頃から北海道農業土木測量設計協会の皆さま、協会各社の皆さまに大変お世話になっております。改めまして厚く御礼申し上げます。またこの度は農土測協時報の貴重な誌面をお借りして、社長紹介の機会をいただきましたこと誠にありがとうございます。

私は5代目の社長になりますが、今のズコーシャがあるのは歴代の社長をはじめ諸先輩方の努力のおかげであると思っております。このことに感謝しながら、自己紹介と会社紹介をさせていただきます。

### 自己紹介

私は昭和46年に有珠山の麓にある伊達市有珠町で生まれ、今年で50歳になりました。

地元の小・中・高を卒業した後、室蘭工業大学に進学して地盤工学・土質工学を学びました。学生時代にフィールドワークで帯広を訪れた際、当時弊社の地質調査課に在籍していた大学の先輩に誘われたのがきっかけで、平成7年にズコーシャに入社しました。

入社して16年間は主に地質・土質調査と地下水解析に関する仕事に従事しました。その後、技術部長として8年間設計業務のマネジメントに携わりましたが、最も苦勞したのは平成28年に十勝地方を襲った台風災害の対応でした。被災箇所が多く、十勝管内の企業だけでは査定に間に合わないという緊迫した状況の中、農土測協の御指導のもと十勝管外の協会各社さまに測量作業の御協力をいただいたおかげで、何とか査定を乗り切り地域の早期復旧に貢献することができました。この経験を通して協会員の強い絆を再確認するとともに、地域住民の暮らしと安全安心を守るのが我々コンサルタントの使命であり、改めてこの仕事を選んだことを誇りに思いました。

趣味は休暇を利用して旅行するのを楽しみにしていますが、コロナ禍でどこにも行けない状況が続いています。今は自分自身の長寿命化計画を実行中で、休日に10km程度のランニングをして健康維持に努めています。

### 会社紹介

弊社は昭和34年に社員4名の測量会社としてスタートし、今年創業62年を迎えました。現在の社員数は約250名で、「農業・環境・まちづくり」をテーマに「環境にやさしい地域社会の形成」を企業理念に掲げて、多種多様な業務に対応しながら北海道内の社会資本整備に携わっております。弊社の特長は幅広い分野の専門技術を持っており、研究、調査、計画から測量、設計までの一貫したサービスを提供できることです。もう1つの特長は建設コンサルタント部門のほかに情報技術を専門に扱うIT部門を持っていることです。デジタル社会に適応すべく、コンサル業務



にIT技術を組み込みながら、お客様の様々なニーズにお応えできる総合コンサルタントであり続けるよう、引き続き技術の研鑽に努めて参ります。

そのほかには弊社ではフレックスタイム勤務や年次有給休暇の時間単位取得制度のほか、子の看護休暇の対象年齢拡大と有給化、介護休暇の有給化など、仕事と家庭の両立を支援する各種制度を導入し、全社員が安心して生き生きと働ける職場環境を整えています。今後はさらに健康経営の推進と若手社員の成長を支援する教育制度を充実させて、社員と地域社会から愛される企業を目指して参ります。

昨年、帯広本社敷地内に最新の実験設備とフリーアドレスを取り入れた研究所を新築しました。今年7月には札幌支社を移転・改装し、アフターコロナを見据えて場所を問わずにリモートワークに対応できるセキュアで魅力的な職場環境を整えました。今後はズコーシャの魅力を積極的に世の中にアピールすることで、研究所と札幌支社を起点に優秀な人材を呼び込み、地域の活性化と北海道の持続的発展に貢献したいと思っています。

## おわりに

社長就任直後に新型コロナウイルスのパンデミックが発生し、まさにコロナに翻弄された1年半となりました。未だ収まらないコロナ禍の中、頻発する自然災害への備え、少子高齢化時代における人材の確保と育成、急速に進むデジタル社会への対応など、乗り越えなければならない課題が多いと感じております。微力ではございますが、皆さまと協力しながら北海道農業の持続的発展、安全・安心な地域社会の形成、若者が魅力を感じる業界づくりに精一杯取り組んで参ります。経営者としてまだまだ未熟な私でございますので、今後とも皆さまの変わらぬ御指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。





## サン技研 株式会社

代表取締役 阿部 元一

### はじめに

北海道農業土木測量設計業協会の皆様におかれましては、益々のご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年から世界的な新型コロナウイルス感染拡大が続き、今までとは違う形で毎日の生活を過ごしておられる方も多いと思います。一日も早く収束され、皆さんが無事に、新しい気持ちでコロナ後の生活を迎えられることを願っております。

### 自己紹介

趣味は落語鑑賞です。興味持ちだしたのは大学の頃で、親友が落語研究会に入っていたので、落語のうんちくを始め、講談、歌舞伎等々教わりました。地元に戻ってきてからはしばらく落語から遠ざかっておりましたが、15年ほど前にさん喬師匠の「文七元結」を耳にする機会があり、落語熱が再燃しました。このような状況になる前は、立川談春師匠と上方の桂米團治師匠を中心に落語会を聞いておりました。最近の推しは神田伯山（松之丞）師匠だったのですが、ブレイクしてしまい遠くに行ってしまいましたので、次の推しを探しております。落語は年代性別を問わずいろいろな方からお話を伺えます。例えば、古今亭志ん朝師匠は旭川国際カントリークラブのメンバー（本名美濃部強次名義）だったとか、立川談志師匠も煮詰まると北海道によく逃避行にいられたとか。伝説となる高座をライブで聞いていた方の話はとても面白くワクワクします（まだ生まれてない頃ですから）。人間国宝 柳家小三治師匠の高座に恵まれますよう、神社参りを欠かさぬ毎日です。

笑いは百薬の長と申します。皆さんは笑っていますか？

落語は生活の中で本当に必要な物では無いのかもしれませんが、心を元気にするためには必要な娯楽と思っております。

昭和43年、旭川生まれ、青山学院大学理工学部卒業 写真は米團治師匠と高座の前にパチリ



### おわりに

このような状況の中ではありますが、皆さまのご健康と、益々のご繁栄を心よりお祈り申し上げます。何かお役に立てることがございましたら、遠慮なくお申しつけ下さい。

これからもご指導ご鞭撻を宜しくお願いいたします。



## 「資格取得から現在の仕事について」

株式会社 みずほ栄設計 河合 翼

私は現在の会社に入社するまでは測量とは業種の違う仕事をしていたので、測量の知識も浅く、毎日の仕事に不安を感じていました。そんな時にお声がけをいただき、卒業試験に受ければ卒業とほぼ同時に測量士補の資格を手にすることができること、その後実務経験を積めば測量士の資格を得ることができること、そして不安に感じている測量にたいしての勉強が出来ることは自分にとって大きなプラスになると思い平成31年度（令和元年度）企業委託生として札幌工科専門学校の測量情報科に入学しました。

学校では、初心者の私にも理解できるように測量とはどういうものなのかということ丁寧な授業で話をしてくれて、それでもわからない時などは何度も教えてくれる先生方や、自分と同じように企業委託生として入学してきたクラスの人々と話し、相談しあって少しずつではありますが確実に知識を深めることが出来ました。また、学校の周辺での電子平板を用いた地形測量や、トータルステーションを使用する基準点観測、近所にあるモエレ沼公園を利用しての水準測量など、全てではありませんが実際の仕事でも行う内容の実習を経験することも出来、何のためにこういう測量が必要なのか、その測量をすることでどんな成果を得ることができるのかを実際に肌で体験することも出来ました。1番の目標だった測量士補の試験は、授業ではもちろん授業が終わってからも過去問や先生方に教えてもらった事を復習し、無事合格することが出来ました。知識や経験が足りていなかった私にとって、札幌工科専門学校で学ばせていただいた1年間は、何よりも大きな財産になりました。

卒業をして会社に戻ってきた今、当たり前ですがすぐに1人前になれたということはなく、わからないことはまだまだたくさんあるし、失敗してしまうこともたくさんあります。ただ、以前仕事を実際にやっても全くわからなかったことが、少し理解できるようになったり、考える事が出来るようになってきたと思います。まだまだ小さな一歩目ですが、自分にとっては大事な一歩目だと感じています。それに満足することなく学べることは可能な限り吸収していきたいです。

学校に通わせて頂いた社長、会社の皆様。仕事が忙しい中1年間という決して短くはない期間、学校で学ばせて頂いたこと感謝しています。これからも仕事に精一杯取り組んで少しでも早く1人前になって迷惑をかけるだけではなく皆さんの役に立てるようになる事を目標に、励んでいきたいと思っておりますので、改めましてこれからもよろしくお願いいたします。

技術者資格取得支援事業  
修了者より



## 協会行事予定

令和3年度		
10月	10月上旬	現地研修会
	10月下旬	中間監査
11月	11月上旬	第2回業務推進委員会
1月	1月中旬	第3回理事会（ポールスター札幌）
	1月中旬～	各地域懇談会
2月	2月中旬	第3回業務推進委員会
3月	3月	農業土木技術者研修会

## 会員の人事動静

- ・北日本測地(株)  
令和3年4月 代表取締役 田中 義則
- ・(株)十勝測量設計社  
令和3年4月 営業担当 金川 秀之  
代表取締役 宮下 義朗
- ・明和測量工業(株)  
令和3年5月 相談役 森谷 清  
代表取締役 都松 佳美
- ・(株)プラテック  
令和2年6月 代表取締役会長 中島 和義  
代表取締役社長 阿部 操
- ・(株)帝国設計事務所  
令和3年6月 代表取締役社長 足立 一郎
- ・(株)ルーラルエンジニア  
令和3年6月 相談役 有好 利典  
代表取締役 関藤 博臣
- ・ダイシン設計(株)  
令和3年7月 特別顧問 村口 明  
代表取締役 本多 弘幸

## 新役員

- |        |       |                   |
|--------|-------|-------------------|
| 会長理事   | 神 耐三  |                   |
| 副会長理事  | 熊頭 勇造 | (北王コンサルタント(株))    |
| "      | 原 正行  | (株)みずほ栄設計         |
| "      | 吉田 浩幸 | (株)よしだ設計コンサルタント   |
| 理事(新任) | 長谷部友二 | (株)北海道農業建設コンサルタント |
| 理事     | 宮本 和則 | (明成コンサルタント(株))    |
| "      | 天満 正博 | (道南測量設計(株))       |
| "      | 山口 武宏 | (株)山口技研コンサルタント    |
| "      | 福田今日児 | (新和測量(株))         |
| "      | 佐藤 直志 | (北海道調査補償(株))      |
| "      | 竹林 恭介 | (株)アサヒ建設コンサルタント   |
| "      | 山崎 俊彦 | (やまざきコンサルタント(株))  |
| "      | 益村 公人 | (益村測量設計(株))       |
| 理事(新任) | 高瀬 裕之 | (平田技術コンサルタント)     |
| 理事     | 橋 俊之  | (東邦コンサルタント(株))    |
| 監事(新任) | 前谷 俊幸 | (アルスマエヤ(株))       |
| "(新任)  | 田中 雅人 | (東和工研(株))         |
| 監事     | 細川 勉  | (税理士)             |

## 合併

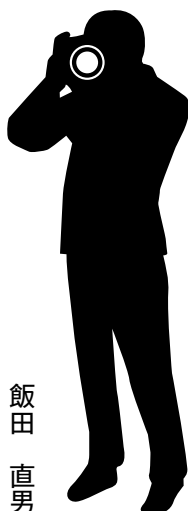
- ・新 旭広尾エンジニア(株) 令和3年4月
- 旧 (有)旭東測量設計社
- (株)広尾測量 (非会員)

## おくやみ

ご冥福をお祈りいたします

- ・臥牛測量設計(株)  
創業者 取締役会長 白尾 博彦 様 (84歳)  
没 令和3年4月16日

# 撮影秘話



飯田直男

ふと立ち寄ったネイチャーセンターで、知り合いのE氏が1室を借りて、写真展をしていた。20点ほど展示されている写真の中に、シマフクロウの写真が1点あり、その背景から察すると、いつもヒグマを撮っている場所付近であることが分かった。翌日、いつもの場所に車を止めてヒグマの写真を撮っていると、E氏が通りかかったので、シマフクロウのことを聞いてみた。「マスが遡上する時期になると、マスを狙って出てくるが多くなるよ」と、話をしてくれた。「よし、それなら撮ってみようか」と思いたち、夕方は早く切り上げることにした。夜中の2時前に起きて、いつもヒグマを撮っている場所で待つことにした。その夜は細い三日月で、月の明かりは弱い、車の電気をすべて消して15分もじっと目を凝らしていると、目が暗闇に慣れてくるせいか、周りの木々のシルエットが分かるようになってきた。しばらくすると、川面から5mほどの高さの所を、川筋に沿って

飛ぶ大きな白っぽい鳥が確認でき、車を向けていた前方の川岸に降り立った。準備していたスポットライトを当てると、間違いなくシマフクロウである。どうやら、産卵を終えたアキアジを狙って降りたものと思われる。「シマフクロウさんライトを当ててごめんなさいね」と思いつつ、20コマほど撮らせてもらったが、30m-程の距離があるせいか、こちらが撮っている間、ごちそうを食べるのに夢中になっていた。その後、ライトを消して見ていると、30分ほど食べて飛び去って行った。その後、2回ほど来てくれたが、東の空が明るくなりかけると、ぱったりと出なくなったので、駐車場に戻ることにした。車をUターンさせ、200m-程もどった道路上に、真新しい食べかけのアキアジが転がっていた。どうやら、私がシマフクロウを撮っているあいだ、熊さんは道路上でごちそうを食べていたらしい。

(深夜に撮影したため、少しばかり画像修正を施してあります。)

## 農土測協時報

令和3年8月版



一般社団法人 北海道農業土木測量設計協会

〒060-0002

札幌市中央区北2条西3丁目1-21 札幌北2条ビル5階

発行

TEL : 011-205-5310 FAX : 011-222-3277

E-mail ndsk@sage.ocn.ne.jp

ホームページ <http://hokkaido-ndsk.or.jp/>

印刷

東洋株式会社

道民の皆さまへ「新しい生活様式」の実践をお願いします



いまは、  
きよりをとって



手を洗おう



咳エチケット



換気をしよう



3つの「密」を  
さけよう



テイクアウトや  
デリバリーも



オンラインを  
上手に使おう



新北海道スタイル

「新北海道スタイル」はじめよう。